

【映画について】

皆さん、耳がきこえない人と話されたことはありますか。筆談、ジェスチャー、口元を見せてゆっくりはっきり話すなど、さまざまなコミュニケーション方法がありますが、その中で手話をメインにして話す人たち「ろう者」がいます。ろう者にとって手話はかけがえのない言葉です。ろう・難聴の子どもたちが通う**ろう学校・聴覚支援学校**では、手話が使われてきたのだろう…そう、多くの方が思うでしょう。ところが、大正の終わり頃から最近までろう学校では手話は禁止・制限されていました。「**口話法**」と言って発声し、相手の口の動きを読み取る方法が急速に広がり、口話法を進めるには手話は不要なものとされてしまったからです。きこえない子どもが訓練によって話せるようになる…、なんと素晴らしいことだろうと、ろう者のことを知らない人は思うかも知れません。

しかし、口話法を身につけさせるために、かつての口話訓練は、つい手話で話してしまう子どもは叩かれ、両手を縛られました苛酷なものです。おおっぴらに手話ができるろう者たちはずっと苦しみました。

そこに疑問をもち、個々の子どもに合わせて手話と口話を取り入れる教育を進めた学校がありました。この映画の舞台となる**大阪市立聾哑学校**です。

映画『ヒゲの校長』は、**校長 高橋潔**を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとにになっています。愛情と信念をもって子どもたちに接した高橋と「チーム高橋」の教員たち、高橋に献身的に寄り添った家族…戦争にあけくれた困難な時代に、ろう者と共に生きた人々の物語です。



どうぞ、ご家族、お友だちと
ご一緒に越しください。



【昭和8年 大阪市立聾哑学校】
～高橋校長ときこえない先生たち～

【あらすじ】



大正3年仙台から大阪へ、青年高橋潔は、恩師の紹介状を持って大阪市立聾哑学校の門を叩いた。家の事情にて海外留学し音楽家を目指す夢をあきらめ、失意にあった高橋。

そんな彼の前に現れたのは、家から追い出され、警官に連れられて来た正一君。耳がきこえず、会話できないもどかしさで暴れる正一君に、高橋は寄り添い、手話を覚え、彼と共に歩みだす…。手話やろう者のことを高橋先生に教えるきこえない先生たち…。

しかし、時代は大きく変わる。「**口話法**」という嵐が全国の聾学校に吹きまくり、口の動きを読み取り、発語できるようにするために手話は禁止するべきと、ほとんどの学校が手話を抑えていった。

ろう者の言葉である手話がつぶされそうになっていく中、手話とろう者を守るべく、高橋校長と先生たちは一丸となって時代にあらがおうと立ち上がった…。

主催 一般社団法人奈良県聴覚障害者協会

◆お問い合わせ・申込先／一般社団法人奈良県聴覚障害者協会 事務所

デフ・フェスティバル担当 指谷 高啓

FAX0744-29-0134 TEL0744-29-0133

Email : since1948-nda@kcn.jp

FAX 0745-78-1123

Email : taka772hiro@kcn.jp